2024年度 会員数 34,689名
（2025年2月3日現在）

公益社団法人神奈川県看護協会

〒231-0037 横浜市中区富士見町3番1 神奈川県総合医療会館内
TEL.045-263-2901（代）／ FAX.045-263-2905
https://www.kana-kango.or.jp/

クリスマスイベント

リハビリテーション室

エントランス

KANAGAWA

看護だより

Vol.221
2025.03

Topics

- [健康ひろば] 認知症について
- [スペシャリストが行く] 認知症看護認定看護師
- 支部コーナーⅡ
- 2024年度 会員交流会レポート
- ビッグレスキューかながわ

野外リハビリが出来る歩道

今月の表紙

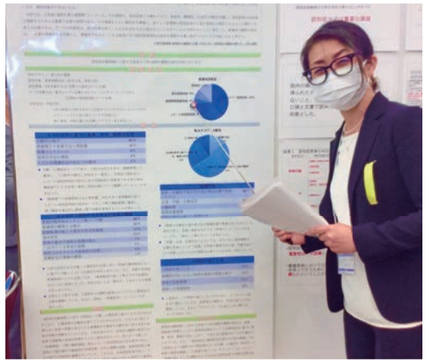
医療法人社団 明芳会
イムス横浜旭リハビリテーション病院

病院紹介は12ページに掲載

スペシャリストが行く！

認知症看護認定看護師

医療法人　三星会
かわさき記念病院



認知症看護認定看護師（2021年取得）
鈴木 良子

私が「認知症看護」に出会い、認知症看護認定看護師を目指すきっかけは、当院の開設時スタッフとして就職したときでした。それまでの私は「認知症」の治療、適切なケアを行った経験がないまま外来勤務をしていました。いままで対応したことのない認知症の方々との出会いは私に様々な経験を与えてくださいました。

病棟に異動後、自分が経験してきた感覚は他者へ説明しきれない自分に気が付きました。私には「専門知識」が足りなかったのです。さらに自分が認知症の方々との対応で感情に振り回される事もありました。患者の状況や疾患を理解し適切にアセスメントしながら患者との関わりを工夫する事が必要なのではないか、そして負の感情をコントロールするためには豊富な知識と技術が必要なのではないかと思いました。そんなとき看護部長からすすめられ2021年資格取得しました。

現在も、病棟勤務で認知症の方々の入院生活を支えています。それと同時に院内や地域での講義活動もしています。患者に一番近い職員がよりよいケアを提供できるよう関わっていく必要があると考えています。私たちの対応一つで認知症の方々の精神状態は左右されてしまうからです。認知症の方々を尊重したケアはもちろん、職員も笑顔でケアに携われるよう関わっていきたいと思っています。そのために、院内での認知症研修や事例検討会などの取り組みを行っています。困難事例に対し各病棟での意見交換などを行い、情報共有や知識の向上、ケア力の向上を目指しています。

認知症看護特定認定看護師（2023年取得）
櫻井 良子

一般的に「認知症にだけはなりたくない」「認知症になったら人生終わり」とのイメージをもつことが多いです。当院のような認知症疾患専門病院へは、患者さんとご家族は多くの覚悟を持って受診されます。専門病院の看護師として接する際、その場しのぎの対応や生半可な態度では通用しません。患者さんやご家族の苦悩に専門性を持って関わりたいと強く思い、認知症看護認定看護師の資格を取得しました。

私は外来で勤務をしています。患者さんは徐々に日常生活に支障を来たし周囲に行動を否定されるなど、苦しい時間を過ごしています。またご家族は、認知症の人の行動に、つい腹を立ててしまう、叱ってしまう、優しくできない自分を責めてしまうなど、お互いに傷ついた気持ちを持って受診されることも多いです。そのような中で、患者さんとご家族に「思い切って来てよかった」と、少しでも思っていただける看護を提供したいと考えています。

認知症の治療は非薬物療法が重要です。その人に合った生活環境を整えることが大切になります。限られた外来受診時間の中で、患者さんの疾患の特徴を踏まえ、どのようにすれば、これまでの生活を持続していただけるのかを患者さんと一緒に考えます。また、ご家族には、24時間一緒に生活する上での悩みを表出して頂ける場を作ることを大切にしています。患者さんとご家族ができるだけ長く、穏やかに療養できるよう支援していきたいと思っています。

認知症看護特定認定看護師（2024年取得）
若年性認知症支援コーディネーター　保健師・看護師
髙橋 萌

「認知症の人が少しでも安心した療養生活を過ごすために看護師として他にできることはないか」と考えたことが、認知症看護認定看護師を目指すきっかけでした。現在は、認知症看護認定看護師取得のために日々現場にて学びを深めている状態です。当院は、認知症により認知機能低下や行動心理症状を認め、地域での生活継続が困難な方が入院してきます。病棟の環境は少数病床のユニット形式に分けた小規模ケアを行っています。顔見知りの患者同士が日々の生活を共にして、同じような雰囲気での生活を継続できる環境です。しかし、どのような工夫を行っても認知症の人にとって入院生活は、精神的に大きな負担となる出来事です。入院直後は混乱した訴えを表出することが多くあります。その訴えは、認知機能障害の程度やADL、生活史や性格などにより違いがあり、「その人」を捉えた環境調整が重要です。そのため、家族や施設の職員など認知症の「その人」とこれまで関わってきた周囲の人との情報共有を入院時や面会時等に密に行っています。これらの情報を他職種とも日々の業務の中で共有し、患者に対して統一した関わりをすることで、患者が少しでも安心した生活を過ごせるように日々努力をしています。これからも、看護師として「その人」を捉えるために寄り添い、その人が安心できる療養生活の環境作りを継続していきたいと思っています。